四季の営農
ワンポイント
アドバイス
【園芸指導】

りんご：ナシマルカイガラムシを撃退しましょう！

【指導員】　果樹課　大和屋　尚享

りんごで「ナシマルカイガラムシ」の被害が年々増加しており、特に、今年度はこれまでよりも被害が拡大し、深刻な状況の園地もみられました。

「ナシマルカイガラムシの被害を受けている」ことを見逃し、適切に対処されないと、2～3年で爆発的な発生につながります。

今回は被害の様子や防除方法を紹介しますので、春先からの防除にお役立てください。

【被害の様子】

幹や枝に寄生していますが、多発すると、寄生部位が白っぽくなります（写真1）。寄生部の表皮を削ると紫色になっているのが特徴で、その部分は枯死します（写真2）。

果実の被害は6月下旬頃から見られるようになります。被害果は写真3のように、赤い斑点がつきます。果実被害は著しいと写真4のようになり、商品価値が無くなります。

写真1

枝に寄生している様子

写真2

写真1の寄生部の表皮下

写真3

▲幼果期の被害（果実に赤い斑点がつく）

写真4

▲果実被害（甚大）

【なぜ被害が増えているのか】

①消雪が遅れ、芽出し前のマシン油乳剤（ハーベストオイルやスプレーオイル）の散布が出来ない。

②雪害を受け、収量減を補うため枝を多く配置していることで、薬剤のかかりが悪くなっている。

要因はこの2点なので、対策を確実に行えば被害は軽減できます。

【防除方法】

①芽出し前にマシン油乳剤50倍を散布する（これが最も効果的です。融雪材を散布し、消雪を早めましょう）。マシン油乳剤は、薬液で気門を塞ぎ溺死させるので、被害部には丁寧にたっぷり散布しましょう。

②展葉期及び6月下旬～7月上旬にアプロードフロアブル1，000倍を丁寧に散布する（りんご防除暦参照）。

③樹体（枝含む）の寄生部位を金ブラシでこすり落とす。

④込み合った枝を整理し、薬剤がかかりやすくする。

◇◆◇

令和6年度版りんご防除暦には、春先の防除でナシマルカイガラムシ対策を掲載していますので、被害が有る方は、防除剤を丁寧に散布しましょう。